

国際奉仕委員会卓話

サンタローザ・サンライズ・ロータリークラブのご紹介

2023. 3. 6

七枝 敏洋

3月6日の国際奉仕委員会のケニヤのモヨ・チルドレン・センターへの支援への支援報告のあと、4月3日の例会で卓話される、ロータリークラブ・オブ・サンタローザ・サンライズ(以下、RCSRS)からの8名の事前情報の提供と報告、歓迎プログラムへの呼びかけをしました。報告の内容は、以下の通りです。

RCSRSと広島中央RC(以下、HCRCまたは当クラブ)は、1987年7月、第1回SRKSEP(鹿児島サンタローザ学生交換プログラム。鹿児島友好協会と鹿児島サンタローザ友好協会が主催、SRC、鹿児島西RC他が協力)で学生10、引率2引率 ウィム(ロータリアン)のが来日することになり、RCSRS会長から、学生らに広島で平和教育の提供依頼があり、当クラブが提供したことに始まります。当時の会長と幹事は、河野雅安会長、水野一正幹事でした。以来、奇数年に同プログラムで学生らが広島を訪問するようになり、当クラブは平和教育を提供しつづけています。毎回、広島滞在中は、例会、夏季家族プログラムへの招待、宮島への案内、時にはホームステイなどで交流と友情を深めてきました。広島で受け入れ、平和教育を提供した学生の総数は、引率者の総数170名(2019年、鹿児島サンタローザ友好協会調べ)に上ります。

このプログラムは薩摩藩の幕末の留学生19名の内のひとり、最年少で渡英し、後にカリフォルニア州サンタローザでカリフォルニアの葡萄王と呼ばれるようになった長沢鼎(ながさわかなえ)が、ワイン産業の育成に尽力したことの顕彰に始まります。SRKSEPプログラムには、これまで広島から2名の学生が米国に派遣する年に、参加しました。

最近のHCRCとの関係では、2017年の北カリフォルニア大火災の際に、HCRCが2万ドルの義援金を届け、2018年の西日本豪雨被災の際には、4.5万ドルの義援金が当クラブ経由で広島県に届いたことがあります。当クラブからも2名の会員等が訪問しています。

2023年4月の来広は、鹿児島友好協会会長のスティーブ・エイメンド氏夫妻、シャウナ・ロレンツェン SRKSEP委員長夫妻をはじめとする合計4夫妻8名で、いずれもRCSRSクラブ幹事、会長経験者、地区ガバナー補佐であり、職業は銀行経営者、公認会計者、不動産業、建築業、病院、コンピューター会社等の経営者で、RCSRSの会員です。

訪問歓迎に際して、HCRCは、4月3日の例会をRCSRSの紹介等の特別例会とすること、夜に歓迎会を開催する事、宮島への案内すること、広島駅とホテル(リーガロイヤルホテル)往復の移動を提供することを決め、会員への参加を呼びかけました。(七枝敏洋)